

「小学校のあり方について」相ノ木校区懇談会

- 1 日 時 令和4年5月15日(日) 14時00分～15時30分
- 2 場 所 上市町文化研修センター 3階大会議室
- 3 参加者 28人(会場参加24人・オンライン参加4人)
- 4 出 席 中川町長、小竹副町長、牧田教育長、小池総務課長(司会)、
碓井企画課長、平井教育委員会事務局長
- 5 概 要 次のとおり

(1) 開会挨拶(中川町長)

学校の統廃合の議論に関しては、町内で小学校を1校にするのか、2校にするのか、あるいは統合せずに現行の体制を維持するという考え方も含めて、皆様と議論をしたいと考えている。

私がかねてから、小学校はその地域の核であると申し上げてきたが、全国的な少子化の流れのなかで、上市町においても年間の出生数が60～70人程度となり、町内小学校6校で平均すると1校あたり12人程度の人数である。このような少人数の学級で、クラスメイトが家族兄弟のような感覚で、本当に競争感覚が磨かれるのか。

少人数の場合、異なる学年との複式学級が編成される場合があるが、例えば、1年生・2年生の複式学級が編成された場合、授業の前半は1年生分、後半は2年生分というように、通常の半分しか自学年の授業ができないことになる。そういう環境をつくってよいのか。今年度においては、白萩西部小学校で複式学級の発生が見込まれ、町単独で教員を配置したことによりその解消を図ることができたが、教員の不足ということもあり、来年度以降も同様に教員を確保できるという保証はない。

白萩西部小学校と陽南小学校については、当該校区以外の地区からも通学できる小規模特認校としてきたが、残念ながら、我々の思うように通学児童を増やすことはできなかった。これは、これらの学校に特色をつくることができなかつたためであり、我々行政の責任と考えている。

これらの問題も含めて、今後の小学校のあり方について、皆様の御意見をお聞かせいただきたい。私は、個人的には「統廃合もやむなし」という言い方をしてきた。これについても、皆様の御意見を伺いたい。

(2) 説明「小学校の適正規模等への見解他」

牧田教育長、平井教育委員会事務局長より別紙資料及びスライドに基づき説明

(3) 質疑応答

発言者①

小学校の統廃合があった地区の知人に、そのことについて尋ねたところ、「子供たちは楽しそうにやっている。」「子供達への登下校時の接し方（声掛け等）は変わらない（当該地区の児童は一旦元の小学校に集まってからスクールバスで移動する。）。」「地元からは、統廃合に関し、特段の意見は出なかった」「（あえて言えば）人数が少ない方が、教育レベルが高くなるのではないか。」といった御意見をお聞きした。また、義務教育学校自体についても、当該地区全体で議論がされているとのことである。義務教育学校のメリットについては、小中学校の区切りが柔軟となり、例えば、英語の授業を小学校の早期の段階で受けられるとのことであるが、これは子供達にとって良いことだと思う。これからの時代は、突出した才能が必要とされており、そのためには、早い段階からの教育により刺激を与えることが効果的であると考えます。

私個人は、小学校の統廃合はやむなしと思っているが、統廃合だけではなく、こうした教育の観点についても検討していかなければいけないのではないかと。

発言者②

相ノ木地区の参加者が少なく驚いている。この課題は、町全体の課題であり、皆が自分ごととして考えるべきことだと思う。学校は、子供達の未来、上市町の未来をつくる大事な場であり、その学校のあり方については、老若男女いろんな世代の方（子供も含めて）が意見を交わし、知恵を出し合いながら、議論を進めていくことが大事だと思う。

教育の課題として、例えば、教員不足の問題があり、高校でも再任用の先生ががんばっておられると聞いている。教員不足対策の一環としても、学校の統廃合はやむを得ない状況になってきていると実感している。

私の印象として、幼稚園・保育所・小中学校の連携が弱いように思う。あまり、引き継ぎがなされていないように思った。各機関の連携協力を進めることも、課題解決の一環になるのではないかと。

発言者③

学校の統廃合については仕方がないと思うし、統合後の学校の児童が増えることにより、友達が増えるのは良いことだと思う。心配するのは、通学についてである。上市町は広いので、例えば、スクールバスを想定する場合は、どのような運用を行っていくことになるのか。そのあたりのフォローをお願いしたい。

教育委員会事務局長

仮に学校の統廃合を行った場合、遠距離通学となる児童が想定されう

るので、そうした児童に対してはスクールバスによる対応が必要と考える。その場合においても、あまり長時間バスに乗車することがないように、配慮する必要がある。

スクールバスの経路等については、統廃合のあり方によっても変わってくるので、統廃合の形が決まった時点で、どのように運行するか検討していきたい。

発言者④

学校の統廃合は、やむを得ないと思う。説明にもあった小中一貫校は、小学校で少人数学級を経験した児童が中学校へ上がる際のギャップの問題や、いじめの問題等の解消に資するのではないか。その際には、通学手段の確保に対し、コストをかけることについて御検討いただきたい。また、保育所等から（統合後の）小学校に入る際のギャップについて、その解消に手当をいただくことにより、統廃合のデメリットとされる点の解消にも資すると考える。

統廃合後の校舎の活用については、具体的なところを示していただきたい。

町長

保育所等と小中学校との連携については、しっかりと確認させていただきたい。

統廃合後の校舎の活用については、現在、統廃合を行うかどうかについての御意見をいただいているところであり、統廃合の形が決まった段階で考えさせていただきたい。

なお、説明資料（17 ページ）で小学校のあり方検討に係るスケジュールをお示ししているが、このスケジュールより早まることはないと考えている。

発言者⑤

義務教育学校の説明の中で、小学校から中学校にあがる際の不安が軽減されるとのことであったが、どういう取組があつて軽減されているのか。

教育長

義務教育学校の効果については、設立されてから期間が短いこともあり、データとしては存在しない。本日の説明は、当該学校の教員からの報告内容からピックアップして、お話しさせていただいている。

発言者⑤

小学校から中学校にあがる際に、子供は不安を抱えており、その軽減に資する取組があるのであれば取り入れていただきたい。

学校の統廃合については、子供の人数を見ても、やむを得ないことと思

うが、どういう状況が子供達にとって良い学びの場であるかということについては、難しい問題だと思う。

例えば、統廃合によって学校の環境が変わるときに、子供達にそれをどのように伝えて、親としてどう対応していくのかを考えていくと、これは大変なことだと思う。学校の統廃合が実施された場合、統合後の学校の指導方針は、従来の学校のものから変化することになると思うが、先生方には、子供の人間性を育むよう、責任をもって指導していただきたいと思う。子供達が幸せな環境で学習できるように、大人が皆で考えていかなければならないと思う。

教育長

今後、町の小学校のあり方が変わるということになった場合は、学校ごとの教育目標も変わることになるであろうが、ご家庭・地域の皆様、学校の皆で、どのような目標がよいのか考えながら、学校を皆でつくり上げる方向で進めてまいりたい。

発言者⑥

相ノ木地区は、過去に住宅団地が多く造成され、町や地域においても、町外からの移住の促進に努めたところであるが、現状は少子高齢化の状態にあり、流れとしては（学校の）統廃合に向かっていると思う。

小学校のあり方については、若い世代、PTAをはじめ、いろいろな方の意見を聴きながら、議論を進めてほしい。皆が、上市の小中学校に通学してよかったと思えるような結果にしていきたい。

(4) 閉会挨拶（中川町長）

これからの子供達に、どのような教育環境を提供するのか、これを決めていくのは大人の責任である。より良い教育環境を提供するためにはどうしたらよいのか。人によっては、（小学校の配置の）現状維持、あるいは全町で1校等の意見があると思うが、そうした御意見をお聞かせいただいた上で、これからの集約に努めてまいりたい。

富山市の水橋地区では、地域住民が市に対し、地域の小中学校を集約して、義務教育学校を設置するよう要望し、その方向で進められている。

富山市においては、現在、地区別で学校再編に係る説明会が行われているが、住民からは賛否両論の意見が出ている。仮に地域から学校がなくなり、他の地域の学校へ子供を通わせることとなれば、保護者である親は大きな不安を抱えると思う。そうした不安を少しでも軽減できるよう、行政も努力していかなければならない。保護者はどのような不安を抱えているのか、どうしたら子供達により良い教育環境を提供できるのかといったことを、皆様と一緒に考えてまいりたい。

以上